

子どもがアンビシャスになるための12の提案



- 福岡県では、「豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持つ(アンビシャスな)たくましい青少年の育成」を目指す青少年アンビシャス運動を進めています。
- アンビシャスな青少年とは
自らに誇りを持ち、他人を思いやる心、自然や美しいものに感動する心、自分と社会との関係についてしっかりとした考え方・国際的な視野を持ち、自分の目標に向かって挑戦する青少年です。

1 まず、大人が意識を変えよう

基本的なあいさつやマナーを守ることができない子どもがいます。それは大人自身にも責任があります。

▽大人が自ら手本を示そう。

2 「うち」の家庭教育をそれぞれつくろう

家庭はすべての教育の出発点です。子どものよいところを誉め、悪いことはきちんとしかることが大切です。

▽家族で話し合い、わが家のルールを書き込むカレンダーなどをつくり、実行しよう。

3 乳幼児期から「社会力」をつけよう

人と人のつながりや社会をつくっていく力「社会力」の基礎は、乳幼児期に培われます。

▽親が乳幼児期にスキンシップをし、友だちと思いきり遊ぶ経験をさせよう。

4 地域ぐるみで子どもを育てよう

異年齢の子どもとの遊びや地域の大人との交流を通じて、子どもは多くのことを学び成長します。

▽地域に子どもたちが気軽に集まれる居場所「アンビシャス広場」をつくろう。

5 フロンティアに挑んだ先人たちに学ぼう

子どもが将来の目標を持てるように、具体的な人物像を示してあげることも必要です。

▽本などを通じて、歴史上の人物や、現在活躍する人たちの志や努力に触れよう。

6 読書をしよう

読書は豊かな感性や想像力を育み、子どもたちの知識を深め、考える力を鍛えます。

▽読み聞かせや学校での10分間読書で、読書を習慣づけよう。

7 自然を体験しよう

子どもは自然の中で過ごすことにより、本当の感動を味わい、困難を乗り越える勇気や忍耐力を身につけます。

▽自然の中のサマーキャンプや自然の恵みを実感する農林漁業の体験をしよう。

8 外国の青少年と切磋琢磨しよう

グローバル化が進む今日、外国の子どもたちと交流し、世界に挑戦する意欲を育てることが必要です。

▽外国の青少年との交流、他流試合に積極的に参加しよう。

9 自らを鍛え、得意技を持とう

これからは肩書きではなく、何ができるかが問われる時代です。自分の得意技を身につけることが必要です。

▽学問・芸術・スポーツなど様々な分野のコンテストに挑戦しよう。

10 社会体験やボランティア活動をしよう

社会体験やボランティア活動を通じて、子どもは社会の一員としての自覚を高めます。

▽ボランティアなどで社会のしくみや働くことの意味、大切さを実感しよう。

11 学校はアンビシャス運動の軸になろう

学校を軸として、家庭、地域、企業などがつながりを深め、人間関係の豊かな楽しい学校に飛躍することが必要です。

▽学校においても子どもたちの自主性や創造性・チャレンジ精神をしっかりと育てよう。

12 企業も大学も意識を変えよう

地域の一員として、企業も大学も青少年の育成に積極的な役割を果たすことが大切です。

▽企業は子どもの職場見学や社会体験の機会を積極的に増やそう。

